

## P-9 OSCE 形式を用いた歯周組織検査実技試験の試行

○本田 尚郁, 邵 仁浩, 浪花 真子, 久保田浩三, 中道 敦子

九州歯科大学歯学部口腔保健学科

Trial implementation of practical skills test about periodontal examination using the OSCE

○HONDA Hiromi, SOH Inho, NANIWA Mako, KUBOTA Kohzoh and NAKAMICHI Atsuko

School of Oral Health Sciences Faculty of Dentistry Kyushu Dental University

キーワード: 実技試験, OSCE, 学生教育

Key words: practical skills test, OSCE, student education

### 目 的

医療系教育機関において、2005年から臨床実習開始前の共用試験 OSCE (客観的臨床能力試験) が実施されているものの、歯科衛生士養成機関では各校の裁量段階である。OSCE は、認知領域だけでなく、精神運動領域と情意領域を含めた総合的評価が可能とされているため、歯科衛生士教育においても重要であると考えられる。また、正確な歯周組織検査の実施は歯周治療において必須であり、診断や治療計画、治療の評価・判定に影響を与える。臨床において歯科衛生士が修得すべき業務として、学生は卒業までに正確な技術を修得する必要がある。

今回、歯周組織検査の実技試験を OSCE 形式で実施し、試験内容の検討を行ったので報告する。

### 対象と方法

某大学歯学部口腔保健学科 2 年生 23 名を対象に、歯周疾患予防処置実習の実技試験を OSCE 形式で実施した。課題は PPE (個人用防護具) の着脱とファントムを用いた模型上の歯周組織検査とした。試験時間は、待機から退出まで 1 人あたり 17 分とし、歯周組織検査の測定部位は 11・12・13 唇側、35・36・37 舌側の各近心・中央・遠心で合計 18 カ所とした。また、動揺度も計測させた。評価項目は 14 項目で、28 点満点とした。評価項目の内容は① PPE を適切に着用できたか②患者への伝達③適切なポジション④適切なプローブの把持⑤指定された歯の選択⑥適切なフィンガーレストの確保⑦適切なプローブの挿入⑧ウォーキングプローブができたか⑨適切に動揺度を計測できたか⑩清潔に配慮した操作⑪患者の痛みや不快感に配慮した操作⑫安全性に配慮した操作⑬ PPE を適切に脱衣できたか⑭歯周ポケットの数値は適切か、とした。本検討では、評価項目①および⑬は除外し、歯周組織検査に関する項目のみとした (24 点満点)。

本研究は学生の同意を得て実施した。

### 結 果

学生 23 名の総得点の平均点は  $17.6 \pm 1.8$  点であった。

最高は 21 点、最低は 14 点であった。評価項目⑥適切なフィンガーレストの確保については 23 名全員がクリアした一方で、⑭歯周ポケットの数値は適切か、については全員が不可であった。また、⑤指定された歯の選択の項目では部位間違いが 7 名いた。評価項目間の得点には相関がなかったが、⑦適切なプローブの挿入⑩清潔に配慮した操作⑪患者の痛みや不快感に配慮した操作の 3 項目は合計得点と相関があった。

### 考 察

今回の OSCE 形式による実技試験は、学生の獲得点数に差があり、単一の技術に留まらず総合的な評価ができたと思われる。また、目で見るとペリオドンタルインスツルメンテーション<sup>1)</sup>にはプロービング技術のスキル評価が 16 項目記載されているが、このうち 11 項目を今回使用した実技試験 5 問において評価することができた。最高点の学生は一致した 5 項目中すべて達成できていたが、これは最低点の学生においても達成項目数は同じであった。したがって、すべての学生は歯周組織検査において、一般的に求められている一定のスキルは修得できていることが示唆された。

また、今回の実技テストでは専門的技術に特化した評価ではない⑩清潔に配慮した操作⑪患者の痛みや不快感に配慮した操作、の 2 項目と合計得点に相関があった。総得点の低い学生は、緊張感のある状況下では上記 2 項目のような基本的な技術が修得できないことがわかった。このことから、歯周組織検査のような専門的な技術だけでなく、感染対策や患者への配慮等の基本的な知識や技術指導を充実させることも重要であると考えた。

歯科衛生士教育において、現在 OSCE は必須ではないが、総合技術の修得に向け、より適切なフィードバックが可能となるため臨床実習開始前の評価に有効であると考えられる。今回の OSCE 形式の実技試験をベースとして、さらなるブラッシュアップが必要と思われる。

### 文 献

- 1) Jill S. Nield-Gehrig: 目で見るとペリオドンタルインスツルメンテーション II, 第 6 版, 医歯薬出版, 東京, 75, 2010.